

## 令和4年5月16日部長会議の概要

**場 所** 市役所3階議会全員協議会室

**出席者** 市長、副市長、教育長、企画部長、行政経営担当部長、総務部長、市民生活部長  
経済環境部長、保健福祉部長、子ども部長、都市部長、国県事業推進担当部長  
土木部長、消防長、議会事務局長、教育部長

### 1 報告事項

(1) 5月議会全員協議会の報告事項及び市議会6月定例会の市長提出予定議案等について  
〔総務部〕

5月20日(金)に開催される5月議会全員協議会の報告事項及び5月31日(火)に召集される市議会6月定例会の市長提出予定議案等を報告した。

(2) 交通安全対策方針について〔市民生活部〕

市が5年ごとに作成している交通安全計画について、令和4年度からは計画としてではなく、毎年度、方針として策定することを報告した。

(3) 権利の放棄について〔市民生活部〕

生活改善事業による住宅新築資金の貸付債権のうちの1件について、債権放棄することを報告した。

(4) 令和3年度広聴事業のまとめについて〔市民生活部〕

令和3年度における広聴事業の実績について報告した。

(5) 市印鑑条例等の一部改正について〔市民生活部〕

令和4年9月末日をもって市役所正面玄関横に設置している住民票等自動交付機を廃止することに伴い、市印鑑条例等の一部を改正することについて報告した。

(6) 住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業について〔保健福祉部〕

給付金の執行状況について報告するとともに、申請がないことによる未受給世帯に対し、令和4年度課税情報を活用したプッシュ型給付を行うことを報告した。

- (7) 伊勢原駅北口地区における市街地再開発事業の取組状況について [都市部]  
事業の取組状況及び今後のスケジュールについて報告した。
- (8) (仮) 秦野市・伊勢原市共同指令センター建設工事について [消防本部]  
共同指令センターの建設工事に係るスケジュールについて報告した。
- (9) 第3期教育振興基本計画策定方針について [教育部]  
令和5年度を始期とする第3期教育振興基本計画の策定方針の概要について報告した。
- (10) 令和4年度6月補正予算の概要について [企画部]  
市議会6月定例会に上程する一般会計補正予算の概要について報告した。
- (11) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金について [企画部]  
コロナ禍における「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」の概要について報告するとともに、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の追加・拡充を踏まえた今後の対応について報告した。
- (12) 伊勢原工業団地協同組合の創立50周年記念事業(工場見学)への助成について [経済環境部]  
組合創立50周年記念事業の一環として、小中学生を対象に実施される工場見学に対し、一般財団法人地域活性化センターの地域イベント助成事業を活用した補助を行うことを報告した。
- (13) 低所得の子育て世帯に対する子育て世帯生活支援特別給付金について [子ども部]  
新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する中で、食費等の物価高騰等に直面する低所得の子育て世帯を対象として支給する「子育て世帯生活支援特別給付金(児童1人あたり一律5万円)」の概要について報告した。

## 2 その他連絡事項

- (1) 社会福祉協議会の会員募集等について [保健福祉部]  
令和3年度の会員募集実績を報告するとともに、令和4年度の募集について協力を依頼した。

## (2) ウクライナ支援のための募金について [総務部]

職員の募金への協力についてお礼を伝えるとともに、駐日ウクライナ大使館に募金を送金したことを報告した。

## (3) ウクライナ避難民等支援ボランティアの募集について [市民生活部]

5月6日から社会福祉協議会において、ウクライナ避難民等への日常生活の支援等に携わるボランティアの募集を開始したことについて報告した。

### 3 指示事項等

<市長>

- ・新型コロナウイルスに加え、ウクライナ情勢や円安など、日々、情勢が変化するので、情報収集を怠らないこと。
- ・物価高騰は、市民の生活困窮をはじめ、資材の高騰による公共事業の執行に影響が及ぶことなどが想定されるため、各部署で適切な対応を図ること。
- ・若手職員については、新型コロナウイルスの影響により就業時間内外において、コミュニケーションの場が不足し、極端な例では同期が誰だか分からないといった声も聞く。仕事以外で交流する機会が十分に取れない中ではあるが、働きやすい明るい職場を築くためにも、先輩職員や上司がフォローしながらしっかりとコミュニケーションを図っていただきたい。
- ・引き続き、仕事を進めるに当たっては、スピード感と現場主義、そして危機意識を持って取り組むこと。

以 上